



写真2 Rose Hotel Yokohama ドラゴンボート参加記録  
場所：Rose Hotel Yokohama  
出典：筆者撮影

レースの熱気や、競技に参加する人々の熱意や喜びを感じることができるかと話していました。横浜市のドラゴンボートレースはすでに近代的なスポーツ競技となっていながら、横浜の重要な地域文化活動の一つでもあり、ホテルにとっては、ドラゴンボートレースに参加することが横浜中華街の文化を発信する責務ともなっているのです。順位を獲得することが彼らの主な目的ではなく、従業員に交流と懇親の機会を提供するチームワークづくり活動のようなものであるようです。

神奈川大学での研究期間はあっという間で、わずか20日間の訪問でしたが、私の博士課程の研究に大いに

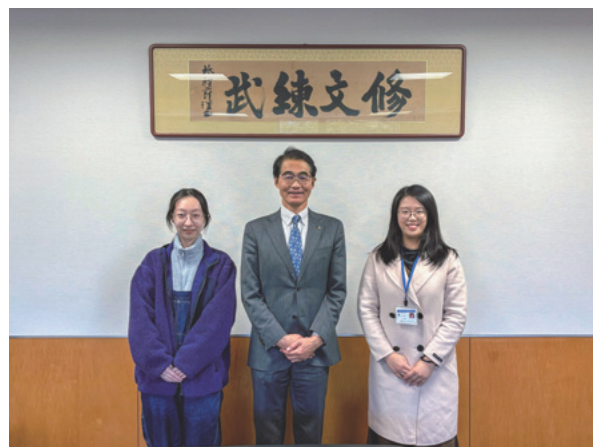


写真3 筆者（右）と小熊学長（中央）の交流、左は宋犀子さん  
場所：神奈川大学  
出典：筆者撮影

役立ち、ドラゴンボートの民俗を別の視点から検証し比較する機会を得ることができました。また、小熊誠学長にお会いして懇談する機会も得たことはとても幸運でした。小熊学長はとても親切でフレンドリーで、ご自身の中国訪問の経験を中国語で話してくださり、私たち若者たちに、もっと学び、もっと世界を見るように、と激励してくださいました。民俗学は、国や民族の境界を超え、寛容、尊敬、理解に満ちた学術コミュニティです。中国と日本の民俗学者の交流が未永く続くことを心から願っています。

## 明治から昭和の日本女性の衣服を視覚化する



キリ・ヴェメテ  
(ブリティッシュ・コロンビア大学)

私の博士論文の主な論点は、日常における植民地主義と近代化が、19世紀末から20世紀初めにかけて朝鮮に住んでいた朝鮮人女性、西洋人女性、日本人女性のお互いの交流によって形成されていったということにあります。なかでも女性たちの相互交流において、近代化や植民地主義についての考えを表現する媒介となったものの一つに、衣服があります。衣服はアイデンティティを示すものであり、表現の形でもありました。女性たちは裁縫を通して自分自身や家族、そして集団としての帝国全体の外見をファッションとして作り上げたと言えます。非文字資料研究センターの交換プログラムに参加した私の主な研究目標は、明治末期から昭和初期にかけての日本女性が着ていた衣服についてより詳しく知ることでした。博物館の展示会に行けば、歴史的な着物の例を簡単に見ることができるだろうと期待していましたが、

残念ながら私の訪問した時期にはそのような展示はほとんどありませんでした。東京国立博物館を訪れ、そこに展示されていた美しい正月用の着物に魅了されましたが、それは江戸時代のものでした。とはいえ、実際に着物を見ることで、多角的に装いを観察したり、その構造について学んだりすることができました。また、文化学園服飾博物館も訪問しました。そこでは19世紀末から20世紀初頭の着物をいくつか見ることができましたが、それらは子ども用のものでした。それでもまた、いろいろな角度から着物を観察し、大正時代の子どもの着用物の構造を知ることができました。横浜のシルク博物館にも着物が展示されていました。それらの着物が歴史的なものなのか、それとも複製されたものなのかはわかりませんでしたが、着物を着たマネキンを見ることで、様々な時代を通じて人々がどのように着物を身に着けていたかを



写真1 文化学園服飾博物館にて撮影

知ることができました。

19世紀末から20世紀初頭の着物を実際に見ることは、期待したほどは叶いませんでしたが、写真という媒体を通して明治、大正、昭和の多くの着物を確認することができました。東京国立博物館でも文化学園服飾博物館でも、衣服の所蔵品の写真が載った展示会図録が販売されていました。これらの本を通して、私は20世紀前半の日本の女性がどのような着物や洋服を身に着けていたのかを知ることができました。もう一つ参考にした写真は、植民地時代の朝鮮の絵葉書です。非文字資料研究センターの図書室は、これらの絵葉書が豊富に掲載された図書を何冊か所蔵しています。これらの絵葉書は主に、植民地時代の朝鮮の風景や印象的な建築物を写したのですが、撮影された風景の中を歩く人々が身に着けていたファッションをもまた捉えています。したがって、これらの絵葉書は、1900年から1945年の朝鮮における日本人女性の服装を垣間見ることができる貴重なものです。また、非文字資料研究センターの図書室には、日本の女性雑誌『主婦の友』も数十冊所蔵されています。誌面では当時のファッションが写真で紹介されているだけでなく、ほとんどの巻号の記事に裁縫の型紙と解説が掲載されていました。そして興味深いことに、ほとんどの型紙は洋服のものでした。『主婦の友』ではこうした月刊の型紙に加えて、新婚の女性向けに特別に裁縫のガイドも発行していました。国立国会図書館を訪れた際に、この特別号を見ることができましたが、その中には、和裁を教えるもの、洋裁を教えるもの、そして新しいスタイルの和裁を教えるものがありました。



写真2 主婦の友、昭和16年8月、非文字資料研究センター図書室所蔵

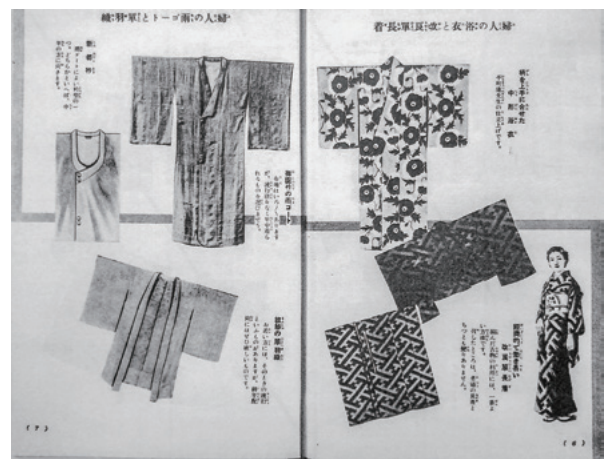


写真3 和服裁縫、上巻（主婦の友花嫁講座；5）1939、国立国会図書館所蔵

非文字資料研究センターの交換プログラムの中に博物館の展示や図録、あるいは古い絵葉書、女性雑誌などで見ることができた歴史的な着物は、明治末期から昭和初期の日本と朝鮮における日本女性たちの装いについての私の知識を大いに広げてくれました。この知識は私の博士論文のうちの一つの章の重要な基礎となることでしょう。